原発再稼働、知事は県民の信を問え

1200人の〝人間の鎖〟で県庁囲む

「原発再稼働を知事や県議会だけで決めるな」「知事選での県民に信を問うという公約を守れ」。花角知事の柏崎刈羽原発再稼働容認に怒った人たち約1200人が25日、県庁、県議会を包囲しました。県庁、県議会を人間の鎖で囲んだのは新潟県政史上初めてのことです。

報道によると、花角知事は、12月県議会に柏崎刈羽原発再稼働に向けた費用を含む一般会計補正予算を提出するとのことです。知事選挙の時の「県民の信を問う」という公約を投げ捨てる行為は絶対に許してはなりません。

12月定例議会審議日程　（会議開始はいずれも10時）

月　日	会議名	会議室名	備考
12月4日（木）	本会議	議場	提案説明
12月5日（金）	農政建設委員会	第1委員会室	案件審査
12月8日（月）	文教経済委員会	第1委員会室	案件審査
12月9日（火）	厚生委員会	第1委員会室	案件審査
12月10日（水）	総務委員会	第1委員会室	案件審査
12月11日（木）	本会議	議場	一般質問
12月12日（金）	本会議	議場	一般質問
12月15日（月）	本会議	議場	一般質問
12月16日（火）	本会議	議場	一般質問
12月18日（木）	本会議	議場	案件採決

12月市議会は4日から

小菅淳一新市長の任期がスタートして初めての定例市議会が4日から始まります。

今定例会では、花角県知事の柏崎刈羽原発再稼働容認問題が大きなテーマの1つとなります。県の調査でも、「再稼働の条件が整っていない」とする県民が6割にもなっている中で、小菅市長は「知事の判断を尊重したい」としていますが、そんなことでいいのでしょうか。市民の不安に寄り添う市長であってほしいものです。

【イトシャジン?】大潟区の県立水と森公園で見かけました。花はツリガネニンジンと同じ釣鐘形で、最初は季節外れに咲いたものと思っていました。でも葉の付き方が違い、イトシャジンかと思われます。花は春から秋にかけて咲くとか。近くには枯れたツリガネニンジンもありました。イトシャジンならば、キキョウ科の多年草です。22日、撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.2229 2025.11.30

発行・編集 日本共産党上越市議　橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL https://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見てある記」は←こちら

橋爪法一　検索

春よ来い

第八七六回　母の写真

緊急入院した従姉（いとこ）の様子を見るために病院へ行ったときのことです。ひょっとすればと思っていたことが実現しました。

従姉が入院した病院へ私が行ったのは、緊急入院した日を含めてこれまで四回ですが、三回目の日でした。「しんぶん赤旗」日曜版の配達を終えてからですので、一六時前後だったと思います。

病室に入ってすぐに従姉に声をかけたら、目をうっすらと開けてくれました。「これなら、見えるかも」と思いながら、スマートフォンに保存してある私の亡き母の写真を見せました。すると、従姉の目が動き、毛布をかけていた胸のところがかすかに動いたのです。たぶん、毛布の下にある手が動いたのでしょう。

従姉に見せた写真は、わが家の茶の間で電動椅子に座っていた母を撮ったものです。「杜氏の郷」の売店で購入してきた酒粕の金平糖を母にあげた時、母は袋から左手に少し出して食べようとしました。その時のタイミングの写真です。茶色のネットを頭にかぶり、青い半纏を着た母はいかにもうれしそうでした。

病院に着く前に、母の写真をみれば反応してくれるかもしれないと思っていましたが、従姉の目や手に動きが出た瞬間、うれしくて涙が出そうになりました。従姉の家族からは、「まだ熱が下がらんがど」と言われていたので、どうかなと心配もしていました。良かったぁ。

翌々日の午後、再び病院に行きました。四回目です。前回、従姉は母の写真に反応してくれましたので、この日も病室に入ってからスマートフォンを取り出しました。前回同様、写真コーナーの「橋爪エツ」というところの写真を見てもらいました。

ここには全部で五三枚の母の写真が入っています。前回の金平糖の写真をまず見てもらい、続いて、わが家の居間で長座布団の上で横になり、母がニコニコしている写真、さらに牛舎の脇で、三輪自転車で運んできた笹の葉を分別している写真を見てもらいました。

「ほら、ばちゃだよ。ほら」と声をかけながら見てもらいました。従姉は目でそれらの写真を追うだけでなく、口をもごもごさせました。これにはびっくりしました。わずか二日の間に快復に向けてまた一歩前進したのです。

母も従姉も元気だった頃、従姉は毎日のようにバイクに乗ってわが家にやってきて、母と付き合ってくれました。自分の家で作った野菜や原之町商店街などで購入した母が好きなものなどを持参してくれていました。でも一方的に母を助けるという関係ではありませんでした。時には母に赤飯を蒸かしてもらい、誰かにあげるようなことなどもありました。

二人の関係はまるで親子のようでした。従姉の母親は大島区竹平で九十代の前半まで生きていましたが、自分の親が亡くなってから従姉は、私の母を母親のように思い、大切にしてくれました。

母と一緒のことが多かったものですから、当然のことながら、従姉は母の着ているもの、被っていた帽子、母の仕草などはしっかり覚えているはずです。

ただ、従姉は数年前から物忘れが一気に進み、グループホームや特別養護老人ホームで世話になっていました。今年の秋に行われた介護施設の祭りで会った際、体調はいま一つだなと思っていました。それだけに今回の緊急入院で早く快復してくれればと思っています。

つい数日前、従姉の家族から電話が来ました。病院へ行った帰り際、「じゃ、帰るわ」と声をかけたら、「どこへ？」と声を出したというのです。よし、もう一歩だ。

ニュースフラッシュ

感動の〝1%の風景〟

助産所や自宅での自然分娩は分娩全体の１%ほどです。24日の午前は、この〝命の風景〟を追ったドキュメンタリー映画、「１%の風景」をみてきました。主催はいのちの応援団。映画は吉川コミュニティプラザで上映されました。

私も自然分娩で誕生した人間ですが、助産師さんのおかげで死ななかったと母から聞いていました。映画をみて、改めて、「よく頑張って産んでくれた」と母に感謝するとともに、女性のチカラはすごいと思いました。私が60代の時、出産を手助けしてくれた助産師さんがわざわざ柏崎からわが家を訪ねて来てくださったことも思い出しました。

上映後の主催者と助産師さんとのトークでは、出産の痛みのこと、無痛分娩の是非などが話題となりました。助産師さんが、「出産は母親と赤ちゃんの二人三脚だ」と言われたことが強く印象に残りました。イラストは映画の１場面とトークを組み合わせて描いたものです。

今年も浄福寺でチャリティコンサート

今年も柏崎区の浄福寺でチャリティコンサートがあり、たいへん賑わいました。

懐かしい歌、素敵な琴の演奏等を楽しみました。左はコミュニティバンド・ピアス。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	11月19日（水）	11月26日（水）
上越消防署	０．０４５	０．０５３
上越南消防署	０．０５０	０．０５７
新井消防署	０．０５３	０．０４７
頸北消防署	０．０５７	０．０５３
頸南消防署	０．０６０	０．０５７
東頸消防署	０．０５３	０．０５７
名立分遣所	０．０６０	０．０６０
高士分遣所	０．０５０	０．０５７